

令和4年度 第3回白井市市民活動推進委員会（全体会）

日時：令和4年6月21日（火）

午前10時～正午

場所：白井市役所東庁舎1階 会議室101

(1) 令和4年度白井市市民団体活動支援補助金の審査結果について [非公開]

(2) 白井市市民団体活動支援補助金成果報告会について

[事務局説明] 質疑なし

(3) 白井市市民団体活動支援補助金公開成果報告会（前年度採択団体）

○● そうでしたら、では、まず1団体目、介護・認知症の家族と歩む会・白井さん、よろしくお願いいたします。

○● おはようございます。介護・認知症の家族と歩む会の●と申します。

私どもは、認知症の御本人と在宅で介護している御家族の毎日が平穏であるようにお手伝いをするというのが趣旨で活動させていただいています。特に、昨年度コロナでいろいろごたごたがありました。それでも私どもは、大きく分けると、講座として、多くの方に知っていただきたいということで、「認知症ってどんな病気」、もしくは、「認知症って一般の方は、なったら365日24時間認知症の症状が出ているという勘違いをしているのではないか」。認知症の本人は、「今日は調子がいい。ちゃんと分かっている。」「今日は駄目だ。」とそういうことを毎日繰り返していますから、いらいらしていたりするのですけれども、家族の方が24時間「うちのお父さんは、あれ言っても分からないのよね。」というように感じて過ごされています。と同時に、私ども、「認知症は改善できる」という講座をやらせていただいています。

これは、家族の方をはじめ、周りの人が何かに気がついてくれたら、認知症の症状が軽くなる、もしくは出なくて済むと。これは実体験で、あちらこちらで重ねてきましたので、そのことを講座としてお話をさせていただいています。

それ以上に私たちが大事だと思っているのは、相談会とか交流会をやらせていただいています。それは、認知症になった方は、その人の今までの70年ぐらい生きてきた積み重ねがあると。そうすると、同じような症状でもAさんとBさんは全く違うと。それを家族の方が分かってほしいということをやらせていただいています。

それから、「認知症は改善できる」というのは、どういうときにどういう対応をしたら、その人が気持ちよく受け入れてくれるのだろうか。それは、私どもお話をさせていただいているのは、その人が普段持っていることができること、それを奪わないでほしいと。もしくは、小さなことをいちいち訂正しないでほしいということをお願いをしています。

それと、認知症の方は、一度死んだ脳細胞が生き返ることはないです。しかし、周りの方は、何かの訓練をするとよくなるというような錯覚をしています。私、昨日も御相談に見えた方が、お医者さんで認知症が改善できる。治ることのできるお医者さんを紹介してくださいと見えました。お断りしました。「一度死んだ脳細胞は返りません。」というお話をしました。

今、一番大事なことは、周りの方がどうしたら改善できるか。それは、当事者がどういう生活をしてきたのか。それと、周りにいる御家族がその方の何を知っているのか。

昨日、男性で見えた方に、お返ししましたけれども。奥さんの中学生のときに好きだった人の名前を聞いてごらん。それから、お二人で話したら、「えっ、何とかちゃん」という話で。話が進むでしょうという話をして、お帰りいただきました。そうしたら、今朝、早速電話ありました。「うちの女房の好きだったやつは、何とかという名前でした。」とか。それで私が申し上げたのは、「もう近所に言っちゃいなさい。」と。

私は、認知症という言葉は原則的に使っていません。「ぼけました」という話をしていきます。「うちのおやじ、ぼけちゃったからよろしくね。」って、軽く言って受け止めてくれたら、外へ出かけても、周りの人が声掛けてくれても、御本人はカリカリしません。

ただし、皆さん、分かっていたきたいのは、「うちのおやじ、認知症です。」と隣の方に言ってみてください。きっと何かの反応があるはずです。

それは、今しゃべっている私、認知症と去年の7月にレビー小体型認知症って、誰もいないのに人がいる。今トイレ行ってきましたけれども、トイレに入っても誰かがいる。そういう、幻視というのですけれども。そういう生活の中にいると、ここにいる方のどなたが、いない人なのにいるのか。それから、誰かの声が聞こえます。そういうことを家族や周りの人が知ってくれたら。「あの人おかしいから、そばに行っちゃ駄目よ。」小さなお子さんに必ず言っています。そういうことがなくなったら、認知症の御本人も家族ももっと楽しくできるのではないのかなと。

おかげでこういう話をずっとやらせていただいたので、今年の5月かな、県の県民講座ということで、講座でお話をさせていただくことになりました。そうしたら、あちこちからリモートで話が聞きたいということで、先日は北海道から九州まで、それをいろいろな方とお話ししたら、それがまたとんでもないところへ行って。

皆さん、認知症のことを御存じかと思うのですけれども。長谷川式認知症のテストというのがあります。日本全国でこれを使っています。その息子さんから電話がありまして。県からも電話がありまして。「おやじも最後は認知症になって苦しんだから。」先生は最近亡くなったのですけれどもね。「●さんとタイアップして、認知症のことを聞いてほしい。講座やりませんか。やりましょう。」って言って。日にちはまだ決まっていませんが。

あえてここまでお話ししたのは、皆さんが知っている認知症というのは、間違いなく間違っています。皆さんは、「●さん、頑張ってこんなに努力して治したのだろう。」治って

いません。おかげでいろいろな方が応援に来てくれています。いろいろな資格がある方。全く違う世界です。まちづくり、家づくり、子供さんを育てる、それから知的障害者の施設をやっている方、それから野菜や。何というのですかね。

○歩む会 野草。

○● 野草というのですかね、草。薬で体を治すことをやっている人たちみたいな人たちが、健康って何だよということで、関心を持って来てくれています。

もう一度申し上げます。私はこれだけしゃべれるようになりました。一般のお医者さんは、「回復してよかったですね。」と言います。もっと詳しい人が、「●さん、注意してくださいよ。ますます深みに入っています。それだけしゃべれるということは、助けを叫んでいるのですよ。」と。それが●先生の息子さんのところに伝わって。一緒にやると思いますけれども。

もう一度言わせてください。認知症は病気です。それと、育った環境で全部違います。そうすると、認知症の方を一つの物差しで測らないでほしい。AさんとBさんは間違いなく違いますから。

それと、今、困っているのは。認知症って病気です。薬はありません。私はお医者さんに行かないように勧めています。

いろいろな団体さんが手を貸してくれています。それは。どこに書いたかな。千葉県でいうと、千葉県ふれあいプラザというのがある。それと。

○歩む会 福祉ふれあいプラザ。

○● 福祉ふれあい。それと、これはちょっと有名なんですけれども、公益法人長寿文化協会というところが、一緒にやりましょうと言ってくれるようになりました。

それと、私が今、狙っているのは。「うちのおやじ、認知症です。」「私、自分が認知症です。」叫んだら、近所が、人が変わりました。「●さん、塀を高くしてくれませんか。」「なぜか。」と言うと、「包丁を持って暴れるんでしょ。」と言われました。そのくらい間違っています。

今、私どもは、まちの中で助け合い、町会とか自治会で助け合い、絶対必要だと思っています。ですから、これを機会に、もしいろいろなところで、ちょっと話しに来いと言っていただければ、お話をしに飛んでいきます。先月は長野県で、飛んでこいと言って、はいと行きました。

何が言いたかったかという、そこの村が村おこしをやるのに、「●さんみたいなばかが出てくれると助かるんだよ。」と。そのばかというのは、「認知症でもこれだけ動ける人たちが集まってくれたら、村が変わるんだよ。」近々お会いすることにまたなりましたけれども。

私、認知症のことしかしゃべっていません。ただ、いろいろなところで分かっていたきたいのですよ。

あと何年かすると、高齢者が、認知症が一気に増えます。在宅介護することができません。施設もパンクします。

3月、4月、今年ですね。私の周りからいろいろな人がいなくなりました。「自分のお父さん、お母さんが、介護が必要だから。田舎へ帰らなければしょうがないんだよ。」と帰っています。仕事も辞めて帰っています。そのぐらい増えてきます。

認知症にならなくて済む方法があるのかといたら、ないと思いますけれども、普通の生活はできるはずですよ。認知症でもお仕事をやってもらっています。ちゃんとできることを探してあげたら、できるのです。そういうことを分かっていたきたいなということで。

○● 最後いいですか。もうそろそろ、時間もあるので。私どもとも質疑応答とか意見交換に移りたいのですけれども。

○● どうぞ。

○● いいですか。すみませんね。どうもありがとうございました。

そうしましたら、では、委員のほうから、質疑とか意見交換の時間に入らせていただきたいと思います。皆さん、何かあったらどうぞ。

どうぞ、●さん。

○● ●でございます。1点、質問というか、どのようになされているのか、ちょっとお聞きしたいことがあるのですけれども。

私は白井市の介護予防推進員を経験いたしまして、その縁で、地域包括支援センターで4年ほど前から行っているお楽しみ処と。認知症の御本人と家族さんの話し相手になるお話し会みたいなのを協力委員として月1回参加してまいりまして。

そのときに感じたのは、認知症の御本人の方も大変ですが、家族の方も物すごい大変だというのがよく分かりまして。そのお楽しみ処に出てこられた御本人さんも、とにかく話を引き出してやると、物すごいよく話をされるのですよね。そうしたら、また家族の方も、本当になかなか周りの方とは話す機会がないらしくて。本当、家族の方も喜んでお話しされているのをいろいろ経験しまして。やはり認知症の方、御家族の方を継続して外に出して話をさせる。それから、外に出て行動させるというのが、一旦なった認知症を進ませないために、非常に重要なことではないかなというのを私も実感。私としては、そういう感覚を持てるのですが、なかなかその相手というのも大変なのですよね。

それで、介護・認知症の家族と歩む会さんが、御本人及び家族を支えるためにいろいろ活動なさっていることを聞いて、大変敬服しているのですが。それらを継続して行うために、どのようにやっていらっしゃるのかどうか、お聞きしたいと思います。

○● ありがとうございます。私どもは、私が走っているだけではありません。うちうちでは、ちょっとおせっかいなおじさん、おばさんという言い方をしているのですけれども。

誰かが気がついてくれたら。あの人ちょっと認知症かなと気がついてくれたら。いきなり声かけても駄目ですけれども。いろいろなちょっと役に立つお知らせというのを今、私

どもまいているのですけれども。例えば、どこかでフリーマーケットがあるよといったら、そこへ行ってチラシをまいたりするのですけれども。そこに、例えば認知症の方が作った作品だとか。今うちで一番売れているのが、92歳の認知症のおばあちゃんが作ってくれた猫。

○歩む会 洗濯ばさみ。

○● 洗濯ばさみで作ってくれた猫があるのですけれども、300円で売らせてもらっています。「これは92歳の認知症のおばあちゃんが作ったんですよ。」と言うと、皆さん変わるのでよね。「うちのお母さんも編み物が好きだったから、できるかしら。」とかね。いろいろな物、作る物を探してあげてほしい。できることを。

私ども、生意気な言い方をしていますけれども、サポーターにはならないでほしい。サポーターは、できる人ができない人のことを助ける。それはやめてほしいと。その方ができる一つでもいいから見つけて、一緒にやってほしい。今日、持ってきていないかな。

そういう話になると思っていなかったのであれですけれども。どんなに認知症が進んで体力が減っても、できることはあるのです。一番簡単なのは。彼女は。字が書けないのです。はがきに水を垂らして、絵の具でブワーツとこういうふうにして。割り箸の頭にこう削って墨つけて。本人は何描いているか分かっているのですけれども、我々が見たら分からないので。グリュグリュグリュグリュッ。それだけです。それを50円で売っています。我々が買っているのです。でも、その方は自分の作品が売れたと思っていますから。喜んでやってくれています。

そうすると、皆さんでデイサービスに行っている方がいるとすると。我々は先方さんとお話しして、デイサービスに行つてなじまない人は、テーブル拭いたり、玄関の靴直したり、お手伝いをしている。それで、家族には払ってもらっているのですけれども。「お母さん、今月のお給料5,000円。」とかと言って渡してもらっているのです。そうすると、喜んで施設へ来てくれる。「誰かさんが来ないけど、大丈夫。」とかがって心配してくれたり。そういうふうにしてできることを探してほしいのです。

あった。これだ。これ。我々ペットボトルに入れてありますけれども、若い子には「スマホ入れるんだよ。」とかがって言って。これ、幾らで売れているの。

○歩む会 220円です。

○● 220円ですって。88歳です。お住まいは足立区北千住です。月に1回、こういうのを幾つか売る。編んで持ってきてくれる。全然お元気です。「毎週プール行って歩いています。」と書いていました。

○歩む会 認知症ではないと言っていました。

○● 認知症ではないのだね。すみません。

○歩む会 高齢の方が。

○● 取りあえず、ありがとうございます。

では、ほかの委員の方、いかがですか。

●さん、どうぞ。

○● ●と申します。所属はPTAなのですが、仕事は特別養護老人ホームのほうの施設に勤めておりました、今、●さんのお話、当事者目線ということでお話をいただきました。やはり施設職員でもなかなか分からないところお話しただいて、非常に勉強をさせていただけたかなというふうに思っております。

いろいろな講座とか講演会とか、体力的に厳しい面もあろうかと思いますが、今、Zoomとかもありますので、これからもどんどん御活躍いただきたいなというふうに思っております。

白井市のほうにつきましても、地域包括支援センター、今、3か所かな。あるかと思いますが、今度、法人委託になったりとかしているところもあるようで、まずは包括の職員なり、行政のほうの職員さんのほうにもお話をいただければ、それがだんだん広がっていくのかなと。以前、認知症の方というのは、家族だけで抱え込んでしまうという時代がありましたけれども、今はだんだん外に出ていく。周りの方にも見守りをお願いするというので、どんどん、どんどん外に出ていこうというような形になっておりますので、ぜひこれからも頑張っていたいただきたいなと思います。

ありがとうございました。

○● ぜひ声をかけていただければと思います。今回も、地域包括さんに、うちははがきで御案内は出していると思います。各所の地域包括さんとのタイアップをどんどん進めています。そうすると、プラスになるのは、患者さんのフォローも地域包括さんがしてくれるのですよ。非常に表情が明るくなったりすると。

それと、施設の方は、私がよく言う、上手にうそをついてほしい。私ども、今、あちこちでやっていただく、何だっけ。

○歩む会 ミニトマト。

○● ミニトマトか。ミニトマトって食べさせていないのです。この人が山形の人だったら、サクランボとかね。イチゴだとかね。ここも大事なのですよ。「何とかさん、山形のサクランボだから甘くておいしいわよ。」と言って、何回か言っていると、食べてもらったらサクランボと間違えてしまうのです。同じ物をこっちに。

○歩む会 イチゴ。

○● イチゴということでやると、記憶がなくなっているはずなのですけれども。「とちおとめはやっぱりおいしいわよね。」と、今、変化が出てきています。今までスプーンでこうやって食べさせていたのが、自分で食べてくれるような人が何人か出てきました。

だから、うそという言葉はまずいのですけれども、認知症ってばかになっているわけではないのですよ。言われた言葉にどこかで反応してくれるのですよ。

今、私はめちゃくちゃ女性にもてています。それは、右が麻痺して冷たいのです。「●

さん、手、あっためてあげてよ。」と来てくれるのです。そのときに、「背中もやってよ。」と言って、背中をこう、さすってもらうのです。「ああ、あったかくなった。」御本人の手が温かくなっているのですよ。「●さんの情熱もらっちゃった。」と言ってくれるのですよ。そうすると、施設の中でもそういうことをやってくれたりするのですよ。これを私は、うそつきと言っていますけれども。

一度、施設でそういう食べ物ときは、うそついてみてください。

○●委員 ありがとうございます。

本人さんがどういうふうにな得をするのか。本人さんの思いが一番大事だと思っていますし、今のさするというのも、もともとの手当てというところで、触れ合いとかであろうかと思しますので、それも含めて仕事に私も生かしていきたいと思えます。

ありがとうございました。

○● やってみてください。

○● ありがとうございます。あと一方、二方ぐらいですが、いかがですか。

○● では、ちょっとよろしいですか。

○● どうぞ、●さん。

○● 大変貴重ないろいろな意見伺って、大変参考になったのですが。私の周りの友人たちも、認知症だという家庭の方が二、三あるのですけれども。今の話を伺いまして、若干でも参考になるように、その友人たちにお話ししたいなと思っております。

本当に今日はありがとうございました。

○● ありがとうございます。

○● さっき、うそという話をしましたけれども、皆さんに分かってほしいのです。言葉で相手に通じていませんから。

いつも言うのですけれども、では、犬飼っている人が。日本語で話しかけているのですよ。犬は分かっていないわけです。ただ、こちらの表情だとか、言葉のニュアンスだとかで、かわいがってくれているというのを分かっているのです。認知症って、その感覚は物すごく鋭いのですよ。だから、分かっていたきたいのは、言葉は通じていないよと。

今さっき、ミニトマト、ある施設は庭にミニトマト、ガーッと植えてくれました。そこに、農家のじいちゃんが「俺が教えてやるよ。」とかと言ってくださいますけれども。人との接点って。私、今年81ですけれども、倒れたのはいつ。

○歩む会 63ぐらい。

○● 63ぐらいのときに脳梗塞で倒れて、4回死に損なっているというか。あと何日と言われたのですけれども、ここまで回復しています。普通の生活はしています。ただ、歩けません。これは、先々週ぐらいに神経梗塞ではなくて。

○歩む会 心不全。

○● 心不全で動けなくなった。でも、動いているのですよ。これは、「●さん、手を触

らせてよ。」という人がいてくれるからですよ。

だから、認知症の方も、家族だとか、本当は周りの人が、「何とかさん、今日は天気いいわね。」と。昨日来た方は、お話をしていたら、「今度、公園でこういうお話し会やりませんか。」と言ってくれたり。「じゃあ、誰か連れてきてやりましょうよ。」と。それが、私のところでメインで動いてくれているちょっとおせっかいなおじさんお婆さん。地域パートナーと言っているのですけれども。

○● ありがとうございます。

くれぐれもお体、気をつけていただいて。すみません、今日は呼びつけてしまいまして申し訳なかったのですけれども。本当に大変参考になるお話をお聞きさせていただきました。本当にどうもありがとうございました。

○● そうしましたら、では2番目の団体、しろいワクワクひろばさんの御報告をよろしくお願ひいたします。

○● しろいワクワクひろば代表、●です。よろしくお願ひします。

○● 同じく事務局担当の●と申します。よろしくお願ひいたします。

では、着座にて御報告させていただきます。

私たちの活動なのですが、多世代交流型子ども農園&子ども食堂事業ということで、実施をしております。

初めに、活動地域なのですけれども、子ども農園については、白井第一小学校区内にある高齢者施設白井の家という所に近い場所にある畑で行いました。子ども食堂については、障害者施設第2ぽけっとさん、または、ぽけっとさんの調理室をお借りして作ったお弁当や社会福祉協議会さんから寄附していただいたお米やお菓子などを、子ども農園の農作業の後に、畑で配布を行いました。

1月、2月の農閑期には、農作業はお休みして、炊き込み御飯やお菓子など、ひだまり館のほうで配布をしております。

活動内容ですが、月1回、土日または祝日の午前11時頃から正午頃まで農作業を行って、その後、食材やお菓子、お弁当、持ち帰り用のカレーライスですとか炊き込み御飯などを配布しました。

対象は、市内にお住まいのお子さんから高齢者の方まで、どなたでも御参加いただいています。

令和3年度の活動状況です。6月のジャガイモ掘りや9月、10月の落花生、サツマイモ掘り、それから12月の里芋掘り、芋煮会には、たくさんの方々の参加がありました。

令和3年度の参加延べ人数、ちょっとこちらには書いていないのですけれども、お子さんが124人、大人が94人、合計218人でした。

昨年度の収支の状況です。市民団体活動支援補助金8万4,000円については、野菜やお



芋、お花の苗ですとか種、それから食材費等に活用させていただきました。

昨年度の活動状況について撮影したものにになります。こちらは昨年9月の落花生掘りの場面になります。こちらは12月の里芋掘りの場面です。じねんじゃーも参加してくれています。こちらは同じく12月の里芋掘りの後の芋煮会の場面になります。また、健康課の保健師さんによるなし坊体操の後に、障害者施設のぼけっとさんの畑とかお部屋で芋煮汁やおにぎり、ライオンズクラブさんから御寄附いただいたクリスマスケーキ、それから参加者の方が作ったケーキなども頂きながら、みんなでひととき楽しく過ごした場面になります。こちらは今年3月のジャガイモ植えの場面です。

このような活動を始めたきっかけは、少子高齢化や核家族化などによる地域の様々な課題があると感じたからになります。白井第一小学校区は在来地区ということで、3世代の同居の世帯もあるのですが、一方で、外国籍の方も含めた若い子育て世帯や独り親家庭の方たちが、近くに親族・知人がいなくて地域から孤立しがちになって、育児の負担から虐待に至ってしまうような可能性もあります。

また、独り暮らしの高齢者の方や高齢者御夫婦のみの世帯も増えてきていて、高齢者の方は心身の機能低下とともに家に閉じこもりがちとなって、孤独死や老々介護などの問題が起こってくる可能性があります。

私たちは、この事業はそのための関わりのきっかけづくりであり、定期的で継続的な活動を通じた交流によって、子供たちや若者の健やかな育ちを見守って、また、若い子育て世帯を応援し、また、高齢者の閉じこもり予防を図っていきたいというふうに思っております。

地域の様々な人との関わりを通じて、子供たちには自信や意欲を、若いパパ、ママには一人で頑張り過ぎないように子育ての孤立防止を、高齢者の方には子供たちや若者との触れ合いで元気や生きがいを、そして、活動している会のママたちは若さと健康を保っていただけるように、実施をしてきました。

こちらは令和4年度の事業予定で、毎月1回の子ども農園と子ども食堂を今年度も実施していきます。4月、5月、6月の事業は既に実施済みとなっています。

会員の構成と協力体制です。会員を中心として、地域の方々やボランティアさん、自治会、社会福祉協議会、障害者施設ぼけっとさん、第2ぼけっとさん、市の健康課など、たくさんの方々の御理解、御協力を得て、活動を実施できました。令和3年度の参加ボランティアさんは、延べで78人でした。高校生や大学生、20代から30代の社会人の方々など、若い方たちも活動を楽しみながらボランティアに参加して下さっておりまして、心強く感じたところです。

私たちの活動は微力ではあるのですが、白井市が目指している将来像「ときめきとみどりあふれる快活都市」を実現するための三つのプロジェクト、若い世代の定住プロジェクト・みどりの活用プロジェクト・拠点創造プロジェクトの実現に向けた取組となっ

ているのではないかなと考えております。

市の補助金や地域の様々な方々の御理解・御協力によって、多世代交流型子ども農園・子ども食堂の活動を令和3年度、実施できました。ありがとうございました。

以上、報告になります。

○● ありがとうございます。

そうしましたら、では、委員のほうから質疑や意見交換させていただきたいと思います。

では、●さん、どうぞ。

○ ●でございます。このコロナ禍になりまして、子ども食堂を行われている団体さんは物すごく苦勞されているというのを聞いておりますけれども、なかなか野菜を作って、それを基に子ども食堂を經營する。なかなかすばらしいことを行われているのではないかと感心いたしました。

一つ。年間を通していろいろな野菜を作っていらっしゃるというふうに御説明されていましたが、結構広い畑が必要ではないかなと思うのですよね。そして、畑というのは、もう手入れが大変で、ちょっと手入れしないともう草ぼうぼうになって、野菜どころではなくなるというのを、私も家庭菜園で経験しているのですが。その畑の管理というのはえらい重労働だと思うのです。これはどのようになされているのでしょうか。

すみません、くだらない質問で。

○● ありがとうございます。本当に、委員さん、おっしゃるように、畑の手入れは本当に大変で、すぐに雑草だらけになってしまうという状況があるのですけれども。そこが、もう定年退職されているボランティアさんが定期的に畑を見回ってくださって、雑草取りですとか、それから、植付けの前の準備、畑を見回ってくださったりというようなことをしてくださっておりまして、そういったボランティアさんの協力なしには私たちの事業は実施できない状況で、本当に感謝しております。

○● ありがとうございます。ほかの方、いかがでしょうか。

では、●さん、どうぞ。マイク使って。

○● 多世代の参加を目指しているということで、チラシとかもあったとは思いますが、けれども、大体それは参加している方々の状況というのは、今、目指しているそういうことについて、例えばリピーターが多いのか、それとも新しい人が出てきてくれているのか、それから高齢者も参加しているのかとか、そういう参加者の状況について教えてください。

○● ありがとうございます。参加者さんですが、本当に、小さな就学前のお子さんから、高齢の方は60代、70代の方まで、様々な方が参加してくださっています。リピーターの方もいらっしゃって、年間を通して6回とか7回とか来てくださっている方もいらっしゃいますし、本当に初めて参加される方も、毎回チラシを見て申し込んでくださった方など、毎回初めて参加されるという方も多くいらっしゃいます。

○● 大体安定した方が来ているのでしょうか。

○● そうですね、収穫の作業のときのほうが参加人数は多いのですけれども、大体平均すると、18人、20人弱の方が参加してくださっているような状況です。

○● ありがとうございます。

○● ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

では、●さん、どうぞ。

○●委員 ●です。私も子ども食堂、今ちょっとできていなくて、食材配布のほうをしているのですけれども。芋煮会とかというのは、ひだまり館でしたっけ。

○● ぽけっとさん。

○●委員 ぽけっとさん。作っているのは、コロナ禍でも、そういった調理とかというのは大丈夫な感じなのですか。

○● そうですね。ぽけっとさんの、第2ぽけっとさんの調理室をお借りして、ちょうどコロナ蔓延防止期間の合間の実施だったので、昨年度は、食事会的なものは1回だけでした。あとは、食材、お米の配布ですとか、持ち帰り用のお弁当の配布という形での実施でした。

○● ありがとうございます。市のほうで私も施設を借りているのですけれども、なかなか調理をしてはいけないというルールがあるので。出したいけれどもできないというのが続いて、どうなのかなと。

○● ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

では、●さん、どうぞ。

○● ●と申します。よろしく申し上げます。

ワクワクひろばさんの活動がとてもすばらしいなど、いつも見ております。

今、ちょっと気になったのが、種植えとかするときの野菜の選定なのですが。これって、例えば、子供たちが「今度これ食べたいな。」とかいうので決めていらっしゃるのか、そういうのを提供していただいたものを植えていらっしゃるのか。その辺り、どうやって選定されているのかなというのを教えてください。

○● ありがとうございます。作物の選定については、本当はお子さんたちからアンケートとかをとって決められるといいのですけれども、手入れの関係もあるので、こちらのほうで決めているような状況で、手入れしやすいお芋類ですとか、あとはネギとかタマネギとか、あまり手がかからないものを選定させていただいています。ハウレンソウとか薬物の野菜だと。あとキュウリとか。そういうものだと、すぐ大きくなってしまって、毎日のように畑に行って、作物の出来具合とかを見ていけないといけないので、そういったものは今の時点では作っていない状況です。

収穫作業のほうの参加が、人数がどうしても多くなってしまうのですけれども、収穫作業と、それから種植えとか苗植えをセットで今後あったら実施するようにしております。

収穫だけでなく、苗植えとか種植えの作業も、お子さん含め参加者の方に知っていただき、体験していただいて、その作物が収穫できる頃にまた参加していただいて、その収穫をみんなでいろいろ引っ張りながら体験していただければなというふうに思っています。

○● ありがとうございます。

○● 作物の追加で季節感のあるものもいいのではないかと。月1度、ボランティアの●さんと私たちと第2ぽけっとさんとで会議をしているのですけれども、「次は何をつくりましょうか。」という感じで。面白かったのは、地植えのイチゴ。何粒もできなかったのですけれども、葉っぱは元気です。あとは、楽しかったのは、ニンニク。ニンニクはとてもみずみずしくて、みんな1かけ、2株ぐらいいは持って帰れたかな。あとは先月ですと、今ちょっと高くなっているタマネギ。結構大きく、1家族3個ぐらいい持って帰っていましたので、多分その日に食べてくれたのではないかなと思います。

○● ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

●さん、いいですか。最後というか、もう御発言ないので。

○● ありがとうございます。

コロナ禍で様々、困難があるということに関しては、昨年、すごくいろいろと苦労されたのかなというふうに思います。今年は少しずつ収束してくるのではないかなというふうに期待もしているところですね。そういったときに、既存の受け入れの方々も、既にいろいろな多様な層に当たっているものと思いますが、交流と学習といった部分がすごくこういった活動の場合には大事かと思うのです。市内の子供たちはもちろんのこと、市外というか、外のいろいろなメンバー等の層といいますか、そういった方々との新しい交流学習みたいな展開はいかがでしょうか。そんな側面といいますか、今年に向けての新たな展開みたいなところとしてそういった輪を深めていくみたいな、そういった部分について何かあればお教えいただければなと思っているのですけれども、その辺いかがでしょうか。

例えば市外在住の私が参加できるといった機会があるのか。そんな質問なのかもしれないのですけれども。

○● 今現在のところは、主に市内のお子さんから高齢者の方までを対象としているところなのですが、将来的には、ほかのいろいろな団体さんとの交流を図れるような活動にしていければなとは思っています。

○● 少しかぶせる質問なのですが、結構いろいろな作業とか業務内容があるので、マンパワー的な部分というか、その他の、参加者というよりは、協力者みたいな形で何かお手伝いできるようなものも、募集の余地があるのかどうかというについて、何かお考えになっていることがあれば、お教えいただければなと思います。あまり専門的な人は行けないかもしれないのですが、素人でも何か貢献できるような、お手伝いできるような、

そんなことなんかもあれば、ぜひお教えいただければなと思っているのですけれども、いかがでしょうか。

○● 農作業と食材やお弁当などの配布といった、一遍に、確かにいろいろな作業がありますので、農作業のほうのサポートであったり、食材の分配のほうのサポートであったり、あと、お子さんや親子さんで参加される方も大勢いらっしゃるの、安全にというかな、泥んこだらけになって、泥を触った手で顔をこすったりとか目をこすったりとかしないように。親御さんたちも見守ってはいるのですけれども、親御さんのほうが、今度は芋掘りとかに一生懸命になってしまって、お子さんの見守りができなくなってしまうたりする場合もなきにしもあらずなので、そういうの見守るサポートなどもお手伝いというのは必要だったりするかなとは思っています。

ありがとうございます。

○● よろしいですかね。ありがとうございます。

ほか、いかがですか。

よろしいですかね。

私からも最後に。今年度で白井市さんの補助金、最後だと思うのですが、審査でも聞いた話なのですけれども、来年度以降の何か展望というか、特にお金のほうをどうされるかというのはありますか。

○● ありがとうございます。実は、市民活動支援補助金は今年度で終了になってしまうので、民間の助成金などをいろいろ調べて申込みをしていければなというふうに思っています。

○● ありがとうございます。例えば、むすびえさんとか。御存じですかね。

○● はい。

○● ●さんがやっているところとか。あそこも今ちょうど公募中の助成金とかもあるので。そんなに大きな額ではないものもありますので、ぜひチャレンジしていただければな。十分、私から見ても、皆さんの活動なら取れると思いますので、頑張っていただけかなと思います。

○● それでは、しろいワクワクひろばさんは以上とさせていただきます。本当、お忙しいところ、ありがとうございました。

○● 白井健康元気村、令和3年の活動実績について報告させていただきます。

まず、事業目的ですが、白井健康元気村活動のコンセプト。日本語で言えば着想ですかね。これは、人生100年時代への対処と。現役退職後の約30年から35年間、どう生きるか。単に健康寿命の維持にとどまらず、積極的に社会との関わりを求めて、気力と生きがいに満ちた元気はつらつとした日々を送って、できればPPK、ピンピンコロリ、これを求めて、スマートにあの世を目指すと。こういうグループです。

今現在、33名います。やや年寄り多過ぎて、平均年齢80歳を超そうとしております。

これらのことをやるために、WHOの健康定義、体健康・心健康・家庭健康・社会健康をバランスよく維持しようとする活動であります。

事業内容としましては、体健康のために健康教室というのを開催して、健康管理能力の啓発に努めようではないか。それから、心健康のためにレクリエーション、農業プランとか旅行。これを企画して、楽しいなという生きがいや共生心、共に生きる心、これを涵養しようではないかと。生きとってよかったなということですね。それから、家庭健康。このためには、終活教室というのをやります。そして、資産管理、遺産相続等の知識の習得によって、ついへの生活設計能力を啓発していくと。これが家庭健康に対する。それから、社会健康。このためには、それぞれやったことを冊子として配布したり、ブログの発信。これは、活動を通して極力市民の皆様方、こんな生き方があるんだというのを広めていくと。こういうことでございます。これが、事業の内容になっております。

そして、この支援事業にお願いしている分野は、健康教室の開催と終活教室の開催に対する御支援であります。

次に、問題点等は、昨年度はコロナの蔓延で、中ホールでいつも100人ぐらい集めてやっておったのです。年8回。ところが、それができなかつた。市のほうの御指導で半分にせえと。50名、互い違いに椅子を並べて、50名ということでやらせていただきました。

それから、今後の課題と展望を言いなさいということがありましたが、村民の若返り。60代、会社定年になった人がどんどん入っていただくと。こういうふうにして、活動の発展を求めたいと。100まで生きるのだから、80代。私は81歳ですが、まだまだ若いと。去年は、エージシュートを4回やっておりますから、まだまだ若いというつもりですが。市のほうの御指導でも、「そろそろじいちゃんばかりになるんじゃないの。」と。若い人にもっと入ってもらいたいと。現在33名ですが、どうも年寄りで60代は二、三人しかいないということですので、そこらもやっていきたいと。

大体、初代の村長をやられた人は、人生二時限論という。こういうことで、定年過ぎたというか、これを過ぎた後の非常に多様性に富む生き方のほうが重要だと。二時限目のほうが非常に重要だから、それをみんなでしっかりやろうということで。何のためにこの世に来たか。遊ばんとてこの世に来ると。こういうことができるのは、二時限だよと。ここを元気はつらつと生きようというようなことで、やっております。

そのためには、WHOの四つの健康を非常にバランスよく保たなければいけないのだと。こういうことでございます。

まず、報告になりますが、市民活動支援補助金の対象となる活動。体健康は、とにかく3回しか実施できませんでした。健康寿命延伸のために、サプリメントとか漢方薬をどう使うか。これは、専門の薬剤師、うちのメンバーに薬剤学の名誉教授をやっておられた方がいますので、その弟子の人なんかに来てもらって、漢方薬なんかはあまり慣れていないので、そういうことをやっています。それから、千葉白井病院の先生に、ロコモティブシ

ンドロームについて。これを。立って歩くということ。これがいかに大切かということで、介護に求めるものは歩けなくなることだと。それから、その人は人工関節の専門家なので、そこらが今どれだけ医学的に発展しているか。股関節、膝関節。これが人工関節にしたら、どんどん歩けるようになってきているのだよというような話をさせていただきました。それから、チーム歯科ができることということで、顎咬合学会の副理事長、この人に来ていただいて、かむということがいかに脳を刺激して大切なことかと、こういうことをやっていただきました。チーム歯科のことができることというようなことです。あとは、認知症についてとか、花粉症についてとかいうのはできなかったの。認知症については、今年度に遅らせて、もうやっておりますが。そういうことで、3回しか実施できなかったと。お金もそんなに要らなかったの、計算して余ったほうもお返ししようというようなことでございます。

次に、家庭健康。これについては、終活教室で、これは1回だけ。これも、健康寿命は口から始まると。要するに、口の中の健康があって、どういうふうに、毎日皆さんどのように健康を保たなければいけないかと。こういうようなこと。こういうことでやったということで、合計4回しかできなかったということでございます。

そのためには、チラシとかポスター、そういうものをたくさん配布させていただきました。33名全員がおとしなんかできるから、毎週第2土曜日は村会を開いて、着々と会議しておりましたが、今年はそんなに集まるなということで、必要なときだけ集まってやらせていただいているということでございます。

それから、そのほかのことについてちょっと話させていただきますと、心健康なんていうのには、パークゴルフ大会。これをやらせていただいております。これは、担当を決めまして、毎月第2金曜日に集まっております。それから、四半期に1回ぐらい大会をやるとかいう。それから、農業まつり。去年は大変農業で苦勞したという話をしておりますが、我々も約1反やっております。直接担当を決めて。それは大変です。ちょっとサボったら畑か草の何か分からんというような。これは非常にやる人の。毎日村行ってやっておるというあれがありました。大変収穫をして、みんなで楽しく収穫祭をやって。そのお孫さんたちにも来てもらって、みんなで楽しくやったというようなところでございます。

あと、皆さんに一つだけ報告しておきたいことが。社会健康といいますか、公園清掃をやっております。自己資金をどうしても稼がなければいけないと。皆さんの補助だけで頼ってはいけないということで、大体33名の村民は、村民税として年間1,000円。これで3万3,000円。それから、児童公園の清掃5か所。これで年間33万。36万と、それから、去年は25万の御支援を頂いたと。かなり大きな年間予算で活動ができたということでございます。

それから、もう一つ。ブログを発信しております。これは、非常に請け負ってくれた人が熱心にやってくれる人で、4年間、2018年の5月からやりましたので、今年で4年にな

りますが、今年の6月で、記事数はちょうど700本。そして、1,500日を迎えた。そういうことで、「白井健康元気村」という名称のブログを出しておるのですが。これをやるトータル閲覧数39万8,367。訪問してきたのが24万6,420。こういう数字が上がっております。このブログに参加しているグループというのですか、これが370万件あるのだそうですが、そのうちの順位は、いつも4,000番台前後です。人気のブログと思っていただいてもいいと思います。非常にその人は専従でやっていただくというので、月5,000円、年間6万円のあれをお出ししておりますけれども、それ以上の仕事をしてくれると。こういう活動がブログによって、どれだけ知られるか。今や白井だけではないです。日本全国に行っているし、世界に行っている白井健康元気村になっております。

以上でございます。

○● ありがとうございます。

そうしたら、委員のほうから、質疑と意見交換をさせていただきます。

では、●さん、どうぞ。

○● ●でございます。

○● ●ですね。

○● はい。白井健康元気村さんは、毎年非常に興味深いテーマの講座を開催されておられて、大変私としては感心しているのですが。いろいろその講座をされるテーマの決め方とか、あと、先生をどのように探していらっしゃるのか、その辺の。物すごい興味あるテーマを毎年行える、その辺のノウハウをお聞かせいただけたらと思っております。

○● それは、私をはじめ、年寄りの凶々しさですね。例えば、千葉白井病院に行ったら、病院の宣伝にもなるから、誰先生やってくれよっていうことを理事長に直談判して。そして、やっていることは、「血管及び血液の健康についてとか、ピロリ菌についてとか、それから、花粉症について、来て話せ。」と。そして、いろいろな、整形外科の部長さんが来て、こういう、「ロコモティブシンドロームについて話してくれ。」とか、そういうことを積極的に言わせて。ただし、お金は、普通そういう先生が1時間話すと片手だそうです。5万円。ただし、謝金は1万円。それから、原稿料は1万円。そして、千葉白井病院の先生は旅費はいらぬ。ちょっと遠くから来る先生は、旅費が必要。

もうそれが決まりだということで。例えば、ある我々の村民が知っている医療評論家のような人をお願いして。顎咬合学会の理事長なんか、本来来てくれるはずないのですが。それを頼み込んで。手紙書いて。「こういうことで来てくれ。」と言ったり。その来てくれという運動は、相当個人や何かの努力が必要です。

それから、一つできなかったのは、みんなで老人ホームがどういうのがあって、将来どのようにするかということをやろうという終活教室。これがコロナのために。一般の人が老人ホームに来るなんてとんでもないということでできなかったのですが。ここにおられる方で、そういうこともあらゆる老人ホームがあるのだよと。どれを選ぶかなんていう



のも必要だと思えますので、この席を借りまして、うちに来いとか何とかいうことがあったら、また御指導いただきたいと思えます。

以上です。

○● 本当になみなみ惜しいというか。ということはよく分かりました。ありがとうございます。

○● ちょうどホームの話もやれるし、今度その代わりどうですか。

○● それから。

○● ちょっと待ってくださいね。何か。

○● 皆さん。

○● ちょっと待ってくださいね。

○● 白井健康元気村のブログを見てください。いっぱいいろいろなことが、ためになることが出ています。それから、健康教室や何かやった後、どういうふうにして、どんなことになっているか、全部きれいに書いていますから見てください。

○● ありがとうございます。では、ブログは要チェックということで。

どうぞ、●さん。

○● 御指名あったりするので。老人ホームといいますと、一般的に多分皆さんがイメージしている老人ホームというのは、大体有料老人ホームだと思うのですね。入所するのに、以前は何億とかありましたけれども、何千万、月々20万から30万アップというようなところが、皆さん一般的に想像されるかと思うのですが。私どものところだと、社会福祉法人ですので、特別養護老人ホームですとか、介護が常時必要な要介護3以上の方しか入れない特別養護老人ホームですとか。あとは、60歳以上の比較のお元気な方、お食事を作るのが大変かなというような程度の方のケアハウスがあったりですとかしておりますし。今は、やはり、サービスつき高齢者向け住宅とか。いろいろとそういった種類もありますので、ぜひ機会があれば来ていただければと思うのですが。すみません、まだうちは、実は、昨日1人職員がコロナになりまして。またしばらくは、見学は御遠慮いただきたいというふうな状況になっています。また時間が来ましたらお願いいたします。

○● 老人ホームで違うのは、ここですぐあるのは分かっておりますね。向こうにあるのには有料でなくて、ウイズホスピタルの千葉白井にあるのは有料老人ホーム。それから、もう一つ、島田台病院のやっているのは、ある期間だけ入るとか。ここにある三つについては、よく理解しているのですけれども。ほかにいろいろな、どんなのがあるのだよというようなのを勉強したいと思っております。

○● ありがとうございます。ほかの方、いかがでしょうか。

では、●さん、どうぞ。

○● ●ですけれども。

先ほどのワクワクひろばさんもそうだったのですけれども、農地、畑を使うのに、それ

は借りているのか、それともある程度払っているのか、そういう農地の確保というのか、それについて教えてください。

○● これはラッキーで、全くただで1反というのを貸していただいていたのですが。あまりきれいに畑づくりを去年しましたので、周りが、どうも、あれは補助をもらっている畑なのに、お金出して貸しているのではないかというような、何かあったのか、地主さんが、本年限りでお返しく下さいと言うので、もうがっかりしているところです。今年度はできなくなりました。お返ししました。

○● そうですか。

○● はい。

○● 逆に、先ほども出た、草だらけで。例えば、無料で貸してあげていても、草だらけにされてしまうと嫌だというようなことで、先ほどの草の管理も大変だとは思うのですけれども。逆に、きれいになり過ぎても駄目ですか。

○● きれいにやり過ぎても、隣近所が「何だ、あれは。お金取って貸しているんじゃないか。」とかいうような、変にすぐ人のことは言う人がおりますので、難しいところですね。それで、草ぼうぼうにしておると、「そこのあの草むらから梨畑に虫が飛ぶから。」とか言われて、電話かかってきて、「●さん、もうちょっと畑の草、きれいにしてください。」と地主さんから言われることもありましたが。去年は、その担当の人がもう熱心にやったものですからね。今度はきれいに。お百姓の畑よりもすごい畑になったわけですよ。そうすると、やっぱりちょっとまたおかしいんじゃないかというふうになりました。

#### (4) 今後の委員会予定について

##### [事務局説明]

○● ちょっとお教えいただきたいのですが、指定管理を募集するに当たって、その要件というところに、その専門職というのはどんな感じになっているのか、差し支えない程度で教えていただければと思います。

質問の意図としては、私の分野では社会教育士という、新しいまちづくりのための学習を基幹とした専門職なんかも盛り上げるような取組をやっているものですから、その辺りと関係します。やはり専門職という位置づけがあると言うことは大事だと思うのですね。こういった指定管理を出したときに、価格だけではなくて、内実の部分というのは、やはり人の専門的知見や技術、能力にひもづいてくるものと思うので、その辺ってどうなっているのかなというのを、興味もあったものですから、お教えいただければと思います。

○● 公表前ですので。

○● 差し支えない部分ということで。

○● 差し支えない範囲でお答えいただければと思います。

○事務局 募集要項の中でその辺は位置づけをさせていただくのですが、センター長と

して、センター長1名と、主任コーディネーター、要するにセンター長に代わる方1名、それからコーディネーターを3名以内で配置していただいて、常時2名から3名を配置していただくという形で。センター長と主任コーディネーターの方は、基本的には常勤の方でお願いするような形で今のところは考えておりますが。特に、コーディネーター、センター長等、何か資格を持っていないといけないということまでは求めない予定でおります。

以上です。

○● ということです。

持っていれば当然、評価は上がると思うのですがけれども、義務かどうかというところだと、今のお答えだと思いますね。